ISSN 0388−5569
VOL. 15 No. 1
(通巻43号)
1994. 4

Library News

山口大学附属図書館報

新入生特集

目次

図書館と仲良く　森　茂暁……1
図書館と読書の思い出　西口　毅……2
カウンターの裏側で考えたこと　水津克規……4
パソコンが図書館をご案内します……5
1994/95 Library Calendar ……6

図書館と仲良く

森　茂暁

新入生の皆さん、まずもって入学おめでとう。

それぞれに、大きな夢と希望をいだいて、キャンパスに第一歩を踏み入れられたことと思います。皆さんは、これから数年間、山口大学の学生としての生活を送られるわけですが、皆さんの人生の方向と質は、この限られた時間の過ごし方次第で、ほぼ決まるといって過言ではないでしょう。そのことを真に実感できるのは、将来のことかもしれませんが、なにはともあれ、学生生活を送ることができるということ自体、たいへん恵まれたことなのです。無為には過ごせません。

ここで、述べたいのは大学図書館の利用とその効用です。皆さんは、これまで高等学校の図書館などを利用された経験をお持ちで、それなりに本についての知識もおありでしょう。しかし、大学の図書館の蔵書の量と範囲はその比ではありません。研究と教育の府である大学の図書館は、その目的を達成するために必要な図書を備えているのです。人間の器官にたとえるならば、図書館はまちがいなく心臓に相当するでしょう。皆さんは、むろん教職員もふくめて、さしずめ心臓に出入りする血液といったところでしょうか。図書館にはそのような大事な役割と責任があり、関係部局では、その責務を果たすためのさまざまの努力が傾けられています。

山口大学の図書館は、開放的で、利用しやすい仕組みになっています。蔵書量は50万冊といわれ、書庫にあふれんばかりの書籍がひしめいています。それらは長い期間にわたって蓄積されてきた知のたくわえです。いろんな機関や個人から寄贈された書籍も含まれています。寄贈された方々は、多くの人々に活用してもらおうとの善意をお持ちだったに相違ありません。書籍は利用されることによって生きるのです。

皆さんにお勧めしたいのは、積極的に図書館と仲良しになることです。図書館と親しくつきあうことです。そのためには、図書館にどんな本があるかを知ることが先決です。一度、意を決して、すべての図書を見て回ってみませんか。そうすると、図書館の図書がどのように分類・配置してあるか、身をもって知ることができます。何度も通っているうちに、少しずつ、本の探し方がわかってきます。そして、いざ、授業での発表や試験にむけての準備をし

たり、レポートを作成する時などに、そうしておいてよかったとしみじみ思うであろうこと、うけあいです。むろん、試験とかレポートとか、必要なときだけ図書館に行けばよいというものでもありません。図書館に行くのが日常生活の一部として、自然に身につくようになればしめたものです。図書館は、きっと皆さんを知的な深い感動の世界にいざなってくれるはずです。

図書館には、古いものから新しいものまで、さまざまの本や雑誌などが豊富に所蔵されています。先人の思想・文化は、文字や絵画・映像等によって今日に伝えられてきました。今日においては、学問研究の自由が保障されていて、他人に迷惑をかけない限りどんな研究をしても咎められませんが、ほんの最近までそういうわけにはゆきませんでした。図書館の本の中には、そのような時代的な枠や制限の中で書かれたものもあります。その意味で、図書館はこれまでの時代の様相を写しだす鏡であり、また現在の学問研究という自由で知的ないとなみの成果を集積し、利用に供する場所でもあります。長い年月をかけて少しずつ進んできた学問研究の水準は、図書館に収められた文献・書籍によってうかがい知ることができます。言わば、知の歴史であり、宝庫です。

図書館は、皆さんが学生として自由に利用できる最大の文化施設です。むろん大学の費用で購入した図書の中には、各教員の部屋やその研究室書庫に置かれたものもあります。これらについても、図書館で調べると所蔵場所が分かります。読みたい本は、多少面倒な手続きを踏んででも、あきらめないで探しましょう。そして、ものごとを調べる楽しみを味わって下さい。知識は貧しくとも、調べる方法を心得ていればよいのです。どの本を読めばよいか、そしてその本がどこにあるかさえわかれば、効率よく勉強することができます。

大学の教育が教員のたゆまぬ研究に支えられていることは言うまでもありません。研究者たる教員はその研究成果を世に問う義務を背負っているわけです。ですから、皆さんが受講している教員自身がどのような関心のもとにどのような研究成果を公にしているかを知ることは、皆さんの意欲や関心を高めたり、教員との親近感を深めたりするうえで効果的です。さいわい、図書館には本学教官の著作物コーナーが設けられています。こういうものもフルに活用しましょう。

本に親しむこと、このことによって皆さんの学生生活に味わいと深まりが芽生えます。図書館と日頃仲良くしておくと、図書館は皆さんとの友情ゆえに、きっといいことをもたらしてくれるでしょう。まず、皆さんのなすべきことは、できるだけ早い時期に図書館の中をくまなく見て回ることです。図書館とのつきあいはその時に始まります。どうか図書館と仲良くして、灯火親しむ有意義な学生時代を送ってください。

（依頼稿）

（教養部教授　日本中世史）

図書館と読書の思い出

西口　毅

新入生諸君、入学おめでとう。思い起こせば、数十年前、僕も希望と期待とに胸を膨らませて大学の門をくぐった。大学時代は、自分が老いるなどとは思いも及ばず、未来に無限の時間と可能性があるように思われた懐かしい時代である。無為に過ごされた時間は、いかに長くとも、思い出としては一瞬に過ぎない。数十年を経た今日でも、胸を締めつける懐かしさで迫ってくるのは、何事かに熱中して過ごした青春期の思い出である。なかでも、教養時代と大学院生時代とが懐かしい。

60年安保闘争の高揚期であった教養時代は、熱に浮かされたように学生運動に明け暮れた。多くの時間を学生運動に取られたが、知識と勉学とにも飢えていた。その知識と勉学への飢えを、最も効率よく満たしてくれたのが図書館であった。貧しい時代の貧しい学生であった僕にとっては、本は買って読むものではなく図書館で読むものであった。教養時代の読書についての思い出をいくつか述べてみよう。

青春時代の愛の悩みは激しく深い。「愛」は、どの時代の若者にとっても、最も関心の深い哲学的かつ現実的課題である。愛は幸福の根底にあるものである。誰しも愛されることを望む。そして、愛の喜びは愛されることにある、と思っている人も多いであろう。しかし、愛することも喜びである。例えそれが報われないように見えるもの（失恋など）であっても。アントワネットは、クリストフへの報われない愛のなかで、胸を締めつける甘美さを味わい不遇な状況にも耐えることができた。彼女の人生は、愛することでそれだけ豊かになった。R・ロランの「ジャン・クリストフ」は、愛すること自体が喜びであることを教えてくれた。（この小説では、クリストフの叔父、ゴットフリートの生き方にも感動した。）そして、愛をなくした後にも愛されることの不幸さにも思い到らせ、漠然と恋愛を美化して考えていた僕に、目からウロコが落ちる思いをさせたのは、B・コンスタンの「アドルフ」であった。

強い意志と不屈の闘志で運命と状況への挑戦を続ける人物にも魅せられた。僕にそれが欠けていたからであろう。第一次大戦前夜の絶望的な状況の中で、反戦運動に殉じたジャック・チボーの闘いは、学生運動での僕のエネルギー源でもあった。（M・ジュガール「チボー家の人々」）。貧しい境遇に生まれながら、誇り高く、精神的な貴族ともいうべきソレルにも魅せられた（M・スタンダール「赤と黒」）。巨大にして偉大な白鯨を、自己の生命のみならず他人の生命さえも犠牲にして追い求めるエイハブ船長の執念にも圧倒された（H・メルヴィル「白鯨」）。

人生のある時期だけで特に強く感銘を受ける本もある。芸術的価値はいざ知らず、青春期に甘美さと感傷と叙情を感じさせる「青春小説」は確かにある。僕にとっての青春小説は、J・ゴールズワージー「りんごの木」、G・サンド「愛の妖精」、T・シュトルム「みずうみ」、H・バルザック「谷間の百合」、E・ロスタン「シラノ・ド・ベルジュラック」、H・ヘッセ「車輪の下」、夏目漱石「三四郎」などであった。青春期に、各人の気分に合った青春小説を読まないのは、取り返しのつかない人生の損失といえよう。

天才とは、経験から超越した存在であり、経験から学ぶことや訓練を必要としない人々であることを知り、自分とのあまりの違いに衝撃を受けたこともある。R・ラディゲは、緻密な心理小説「ドルジェル伯の舞踏会」を、まだ人生経験が殆どない18歳で書いた。群論の基礎を築くなど近代数学の構築者の一人である不世出の天才E・ガロワは、16歳で数学を学び始めたが、最初の2日間でA・ルジャンドルの「幾何学原論」を読破した。幾何学の構造全体が把握され、定理を見ると瞬間的に証明方法がひらめいた。共和主義者となった彼は、放校、入獄の後、20歳の短い生涯を無名のまま終えた。（名声は死後数十年にして定まった。）つまらない女出入りによる決闘におもむく直前まで書き続けられていた論文の最後の余白には、「時間がない！」と書かれていた。僕は涙が流れて止まらなかった。（L・インフェルト「ガロアの生涯－神々の愛でし人）

未来のコースを変えた本もあった。C・ベルナールは血糖調節機構などを発見した偉大な生理学者である。彼の死後、彼の実験室にはいった彼の夫人は愕然とした。そこには彼の研究の犠牲になった動物のおびただしい遺骸があった。夫人は以後の生涯を動物実験の抑制を訴えることに捧げた。この伝記を読んで、僕は生き物を研究材料にする研究は好きになれないような気がした。そこで、予定していた医学部ではなく工学部に進学した。（教養から専門に移行するとき、進路変更が可能だった。）

院生時代は、ただただ研究だけのことを考え、研究だけに明け暮れた。それで楽しい時代だった。図書館で読むものも、専門誌と専門書だけに近かった。そして、「目隠しされた情熱（他人にはつまらなく思われるようなことでも、極めて重大なことと考え、全力を傾けて研究する情熱）をもった者だけが、学問を職業とする資格を有し、学問を進歩させ得る」というM・ウエーバーの学問観に全面的な共感を覚えた（「職業としての学問」）。

大学は、授業によって知識を得る場所だと思われがちである。しかし、われわれ教師が学生諸君に与えうる知識は僅かなものに過ぎない。諸君は、社会人、職業人として生きていくために必要な知識の大部分を、自学自習によって得なければならない。その自学自習を最も効率よく行える場所の一つが図書館である。

（依頼稿）

（教養部教授　化学）

カウンターの裏側で考えたこと

水 津 克 規

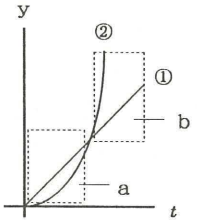


図 1

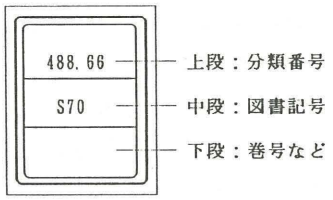


図 2
請求記号

図書館にはたくさんの本があります。図書館に本がたくさんあるのはあたりまえです。ちなみに、山大本館にはおよそ45～50万冊あります。しかし、それらを整理するには、莫大なエネルギーと時間が必要です。【運用係】の職員が返却された本を元あった場所に戻す時に、その周りの本も順番にそって並べ直します。そのとき職員ができる書架の整理の量は一次関数的です。もちろん熟練度が関係しますが、それを無視して次のように考えます。　$y = at$……①　yは整理できた冊数、定数aは整理する職員の人数、tは整理に要した時間です。次に、本の乱れる量は②のようになります。　$y = bt^2$……②　yは本来あるべき所にない本の冊数、bは学生の人数、tは前回の本の整理から経過した時間です。（上記の①、②の式は統計的に調べたわけではないので、根拠はありません。また、tのスケールも異なっていますので、イメージはこのようなものだと思ってください。）

例えば、その日入館している学生が少ない場合、本の並ぶ順番が乱れる前に並べ直すことができます（図１ａ）。ところが、試験期には図書館がいっぱいになるほど学生が訪れ、また、返却される本も大量になってきます。そうすると、どうしても順番の乱れは、加速されてしまいます（図１ｂ）。この時の書架は利用しにくくなってしまいます。

とは言え、このようなときは図書館に活力が感じられ、流動的で、「図書館は生命体だ」とさえ思えてきます。本一冊が細胞一つに当てはまり、本の内容はＤＮＡの遺伝情報だと言い換えられると思います。そして、その細胞が定位置にきちんと納まっているときこそ、器官が潤滑に機能し、於いては個体が正常に活動できるのではないでしょうか。さらに、年々蔵書数が増加する様子は年を経るとともに成長していく様子と似ています。インドの図書館学者Ｓ．Ｒ．ランガナタンは、「図書館学の五法則」で“図書館は成長する有機体である”と表現しています。

さて、ここまでで本の整理が大変だと愚痴をこぼしているかのように思われるかも知れません。しかし、そのつもりはありません。なぜなら、私自身が平成４年度まで山大生でしたから……。きっと、本が本来あるべきところにもどせない原因はどこへ戻すべきか分からないためだと思いますし、私自身そうでした。

本にはそれぞれ、住所が書かれています。本の背には黄、緑、橙、青などのラベルの色と、そこにかかれた記号がそれです。黄のラベルは開架の図書、それ以外は書庫の図書です。さらに、ラベルには請求記号がかかれています。上段には分類番号、中段には、図書記号が示され、下段に巻号や年数がかかれたものもあります（図２）。この本の住所をもとに、目当てのものを見つけ出したり、またもとに戻したり、簡単にできます。

例えば、黄色のラベルで上段から順に次のように記されているとします。

７２６．１　　Ｔ２１　　１

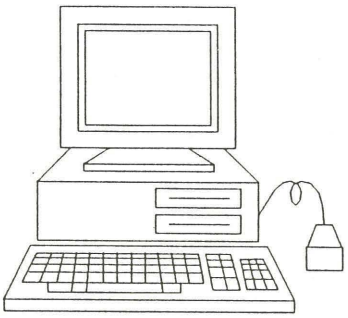
この本は開架室にあり、芸術分野であると分かります。さて、この本の題名は何でしょう。意外な本が配架されています。

もし、題名が分かればカードや、端末機器を使ってコンピュータで検索できます。端末の使い方が分からないときは、図書検索の手引きが機械のそばにあるので参考にしてください。それでも分からないときは、【参考調査係】の職員に質問すれば教えてくれます。

大学の図書館はなかなかおもしろいところです。そして、フルに利用してアカデミックな雰囲気も楽しんでください。教養の多様な授業のレポートの資料の収集にも役立ちます。また、空きコマの時間潰しにいろんな本を物色してみると、今迄は興味のなかった分野で新しい発見ができるかもしれません。美しく、楽しく、便利な図書館は学生の皆さん自身でつくることができると思います。上手に活用して大学生活を有意義なものにしてください。

（元運用係職員）

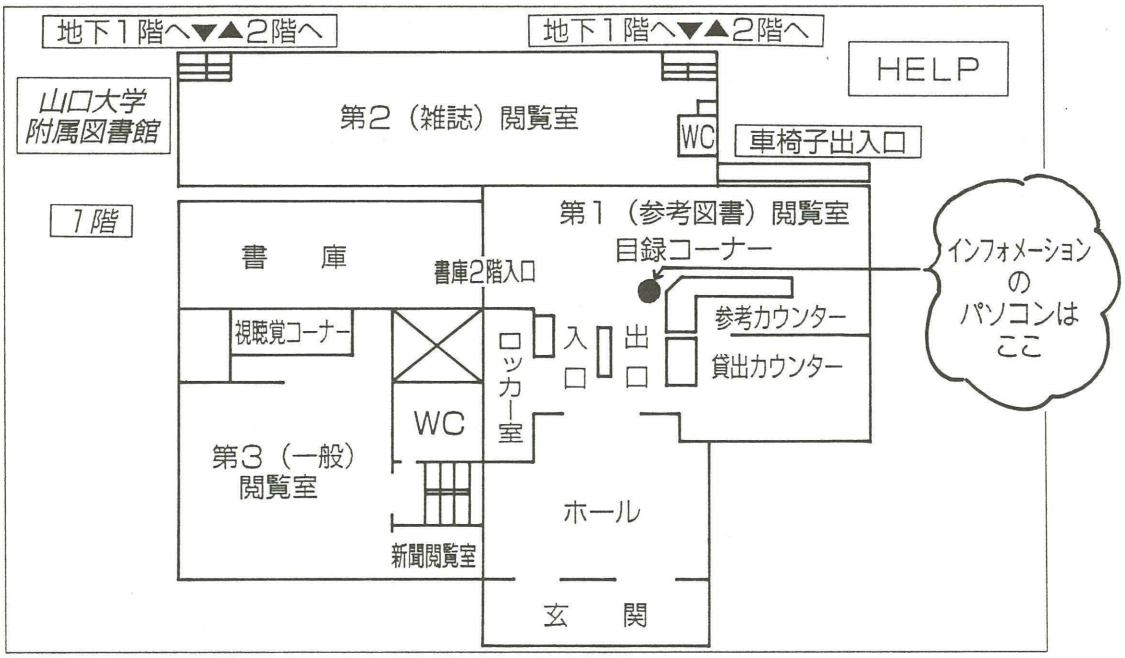
パソコンが図書館をご案内します！



山口大学の沿革および山口大学の図書館は？
開館予定日および開館時間
館内の案内図
図書館を利用するには……
他の大学図書館等を利用するには？
山口大学所蔵図書、雑誌を探すには？
参考図書には、どんなのがあるの？
資料のコピーは？
山口大学附属図書館特殊文庫は？
全国共同利用図書資料山口大学所蔵分は？

操作は簡単。知りたい所に合わせてマウスのボタンを押して下さい。

例えば、館内の案内図



開館中は自由に使って下さい。

1994／95 Library Calendar

平成６年度(1994.4～1995.3)

山口大学附属図書館・本館

	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
1994 4																																	セ	祝				1994 Apr.
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
5			祝	休	祝																										セ							May
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							
6				創																													セ					June
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					
7																																		セ				July
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
8		セ	セ	セ	セ	セ																										セ						Aug.
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
9																			祝								祝											Sep.
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
10									セ							祝																					セ	Oct.
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
11					祝																				祝							セ						Nov.
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						
12																											祝			セ	セ							Dec.
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
1995 1	祝				セ									祝	振																							1995 Jan.
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							
2														祝																	セ							Feb.
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28							
3																								祝		セ	セ			セ	セ	セ	セ	セ				Mar.
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				

備考

開館日

平日（月～金）　8：30～20：00　8：30～17：00

土曜日　8：30～16：30

［夜間開館・土曜開館実施期間］
第１期：　4.11(月)～ 7. 9(土)
第２期：　9. 6(火)～12.23(金)
第３期：　1. 9(月)～ 2.27(月)

閉館日

全館休館日

館内整理日（一般閱覧室・新聞閱覧室は開館）（図書等の閱覧、貸出はしない）

（日）　日曜日
（祝）　国民の祝日
（創）　創立記念日
（年末年始）　12.28～1.4
（土）　休業期の土曜日

（セ）　月末整理日（試験期間を除く月末日。土曜繰上）
（特）　特別整理日（春季および夏季休業中に実施）
（年末年始）　12.26～27、1.5
（その他）　入学試験実施日など

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　☎ (0839)22－6111　内線788